

現場の負担軽減を図る

- 放射線の専門家になる必要はない
 - ✓ 気持ちの負担に配慮
 - ✓ 地域保健活動では、専門機関などとの連携も重要であり、その役割を果たせるように

研修のコンセプト

- 現場で持っておられる疑問の解消に役立つように
 - 現場の課題を中心としコミュニケーション問題を重視
 - 現場での放射線防護対策の相場観醸成に役立つように
 - よい事例を共有する

リスク・コミュニケーション対応能力づくりの必要性

- ・ 国際保健規則でのリスク・コミュニケーション作業グループでの議論から（2011）
 - － リスク・コミュニケーションとは何かの理解が不足
 - － コミュニケーションの重要性が理解され難い
 - － リスク・コミュニケーションを進めるための科学的根拠が不足
 - － 公衆を対象にしたプログラム担当者へのコミュニケーション能力養成活動が不十分



リスコミ **なぜ、困難な課題なのか？**

1



リスク・コミュニケーション活動の展開を困難にする 構造的な問題

2



コミュニケーションの専門家が、リスク・コミュニケーションの戦略的計画策定時に参画していない

3



リスク・コミュニケーションとクライシス・コミュニケーションの違いが明確ではなく、それぞれの対応能力育成のあり方が確立していない

私たちが考えるよりも複雑

Barnett Pearce, Communication Scholar, 1989

私たちのアプローチは単純すぎた

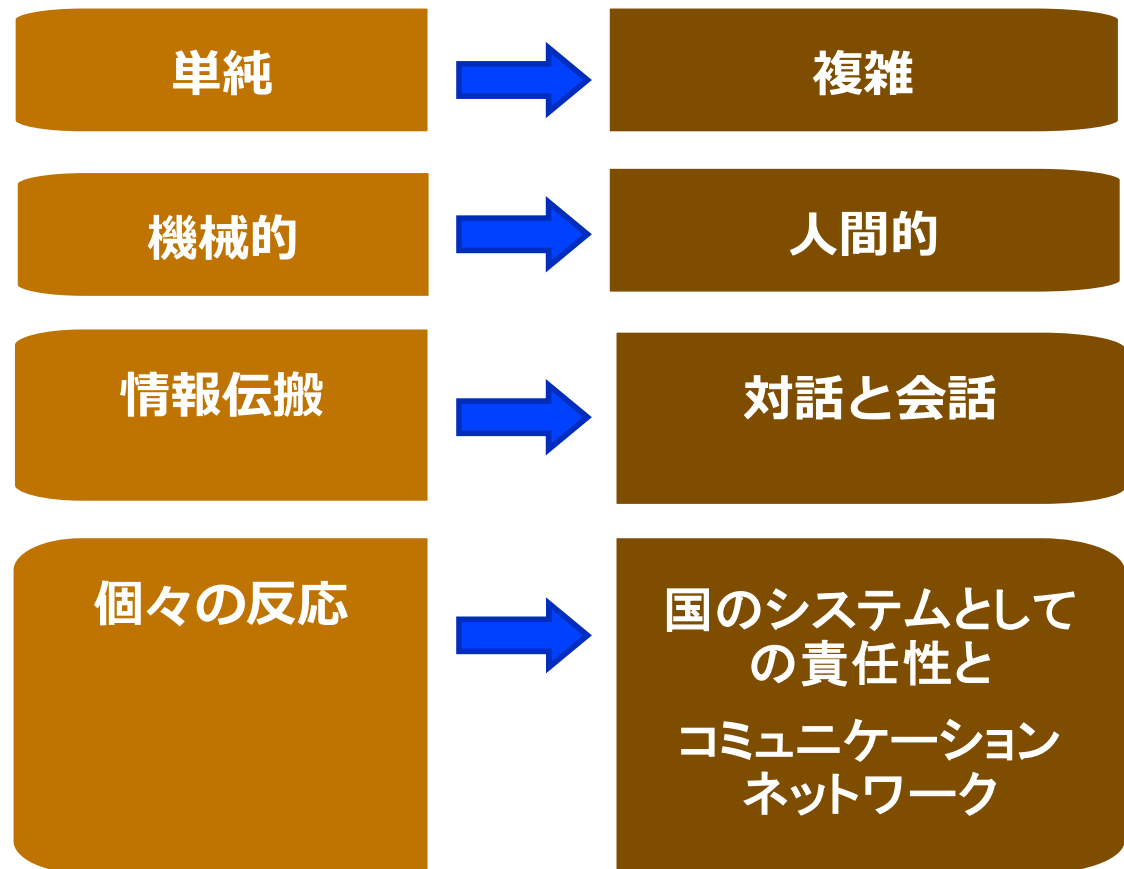
*Mike Ryan, former Director, Global Alert and Response
Department WHO, Dec. 2009*

もたらされるパラダイムシフト

Time for a Paradigm Shift?



科学的根拠に基づく取り組みを



出典情報:WHO

リスコミ 効果的なコミュニケーションの実践

- 人々が強いストレス下にあるとき、曖昧な状況は「闘うか固まってしまいか」の反応をもたらす
- 最近の神経生物学研究は情報を処理するために私たちは感情を扱う必要があることを示している
- 面と向き合ったやり取りは、公式発表や記者会見と異なり感情を扱うことに役立つ
- 人々は理解されたと感じるときに感情が制御でき対話に意味を持たせることができる



出典情報:WHO

- リスクに直面している人々が、その被害を避けることができるように情報を与えなければならない：実用的義務
- 人々が選択できるように、情報に対する権利を持っていることを保障する：道徳的義務
- 人々は情報を求めていることを前提としたもの：心理的義務
- 人々は、政府（行政）がリスクを効果的（リスク削減）かつ効率的な方法（費用対効果）で規制することを期待しており、この責任が政府（行政）によって適正に果たされているという情報が伝達される：制度的義務（政府に課される）

- 4つの義務を果たす意思がない
- 4つの義務を果たすための技術的問題がある
- 情報を得る側の（リスク）認知に配慮しない
 - リスクをどのように理解、受け止めているのか
- 情報を得る側のニーズに配慮しない
 - 伝える側の判断で情報が加工されている
- リスクに関する理解と説得されやすさの関係を理解していない
- 情報量を制限する
 - パニックを起こすから・・・
- すばやく対応しない

社会的論争のリスクコミュニケーションの目標

- 利害の異なる関係者間で合意が形成されること
- 関係者たちが、当該の問題や行動についての理解の水準を上げ、利用可能な知識の範囲内で適切に知らされていると満足すること
- 決定過程の初期の段階からリスク専門家以外の関係者が参加すること
 - * 周辺住民に計画策定の段階から十分に情報を知らせる
 - * 住民の意思表示の機会があること
- 社会的受容（理解、納得）：リスクの公平配分
- リスク専門家の決定を受け入れさせることが社会的論争のリスクコミュニケーションの目標ではない